

「令和元年度群馬県立自然史博物館の評価」について

群馬県立自然史博物館専門委員 中村修美

評価委員会にてご説明いただいた内部評価結果に基づき、いくつかの所見を述べさせていただきます。

まず、全体として博物館の使命と期待される諸活動について、職員の皆様の活潑な活動が展開されていると思います。また、今回から「博物館基本構想実現に向けた取り組み」の評価を実施されています。ともすれば、職員へのフィードバックなどが十分行われないこともありますので、職員の現状把握や意識の向上に貢献し素晴らしい活動だと思えます。

評価ですので、設定した目標値に対しての結果がどうであったのか（達成度）が求められると思います。項目別実施結果には実績値が提示されていますが、設定した目標値が明示されていません。評価指標として「令和元年度目標値の設定」行っているのですから、どこかに表示し「目標」と「結果」が比較できるようにした方がよいと思います。

具体的な活動部分で3点述べさせていただきます。まず、資料に関してです。「収蔵スペースの不足」は、多くの博物館で直面している課題です。簡単な問題ではないですが、課題として発信し解決に取り組んでいただきたいと思えます。このような状況では、受け入れ資料の制限もやむを得ないと思えます。一方で受け入れた資料はしっかり保存し活用していく必要があります。そのためには日常の管理が重要になってきます。燻蒸を年1回実施されていますが、薬剤の変更により殺菌殺虫効果が減少しています。燻蒸後にも虫が生き残っていたとの報告もありますし、特に菌類に対しての効果に問題が大きいようです。また、殺菌効果を有する薬剤で燻蒸を行うと資料に含まれるDNA分子の断片化の原因になり、その後のPCRによるDNAの増幅、DNA解析にも影響を及ぼす場合があることが明らかになっています。使用されているエキヒュームSとアルプはDNAに影響を及ぼすとされ、少なくともDNA解析に使用する予定がある標本は燻蒸するべきではない、とされています。今後は薬剤の使用が難しくなっていくことも考えられますので、日常的なIPM（総合的害虫管理）が重要になってきます。毎日目視での点検を行っているとのことですが、さらに進んで清掃を含めて定期的にIPMを実施していただきたいと思えます。

次にアンケートについてです。展示では非常に高い満足度を得られていて、大変喜ばしいと思えます。アンケートは対面式で行っているとのことですが、素晴らしいと思えます。設置式ですとどうしても回答年齢などにバイアスがかかりやすくなります。対面式は労力が必要で大変ですが、直接意見や要望を聞く貴重な機会となります。今後も実施してくださいようお願いします。

最後に、職員の資質向上についてです。平成20年の博物館法の改正で「学芸員等の研修を行うよう努める」ことが追加されました。今回、職員の意識改革と資質の向上で「研修会・学会等への参加が少ない状況にある」との評価がされています。予算の制約や業務多忙で厳しい状況にあると思えますが、博物館の質の向上には新しい情報・知識・技術は必須のものです。また、研修というとそれぞれの専門分野を思い浮かべます。それらは当然研修の必要な分野ですが、博物館の質の向上の面からでは展示やユニバーサルデザイン、ハンズオンなど博物館学の研修も大切です。様々な分野の研修が博物館の活動の質を向上させていくものと考えますので、今後も研修参加の機会に努めていただければと思います。

新型コロナウイルス感染症の影響で、社会情勢も変わってきています。博物館もこれまでに経験のない対応が必要になってきていますが、職員皆様の取り組みにより群馬県立自然史博物館がよりよい方向に進むことを期待しています。